

生産力の強化と担い手育成による梨産地の維持

～都市化が進む地域で梨づくりを続けるために～

活動事例の要旨

八千代市の梨生産は、栽培面積 53ha、農家戸数 56 戸で、直売を主に発展してきた。しかし、土壌病害である白紋羽病が引き起こす改植後の若木の生育不良や労働力不足による生産力の低下、また、産地を支える担い手の継続的な育成が、産地を維持していく上で課題となっている。

そこで、温水処理技術の導入による白紋羽病の防除、労働力不足に対応する省力樹形と機械の導入、若手生産者及び女性農業者の育成に取り組んだ。その結果、温水処理技術による白紋羽病の防除に取り組む生産者が増加するとともに省力化による担い手の規模拡大が進み、生産力を維持する基盤が整った。

また、若手生産者及び女性農業者の経営参画が進み、産地を支える担い手の育成が図られた。

1 活動のねらい・目標

八千代市の梨産地では、八千代市果樹産地協議会が樹立した果樹産地構造改革計画に基づき、産地振興を図ってきた。果樹経営支援対策事業（国庫）を活用するなどして改植・新植に取り組んでいるが、白紋羽病の発生により計画どおりに進まず、生産量の低下が懸念されている。

また、高齢化により労働力不足が進む中で、主要な担い手の生産力を確保することが、産地を維持していく上で、より重要になっている。

そこで、梨産地の維持に向けて、白紋羽病防除技術の導入、労働力不足に対応した省力樹形や機械の導入、若手生産者や女性農業者の経営参画を目指し、普及活動を行った。

2 活動の内容

(1) 計画的な改植の実施に向けた白紋羽病防除技術の導入

白紋羽病防除に有効な温水処理技術の導入を進めるため、農林総合研究センターと連携し、現地における防除効果を実証するとともに、令和元年～3 年にかけて設置方法の講習会を 7 回開催し、併せて防除のメカニズムや治療効果について解説し、技術に対する理解を促した。

また、実際の防除効果を確認するため、処理後 1～2 年の樹を対象に 2 年にわたり、白紋羽病の発生状況を調査した。



写真1 温水処理実施方法の講習

その結果、隔年で温水処理を実施することにより、白紋羽病による枯死を防げることが確認された。講習会等で生産者へ結果を周知し、温水処理技術の導入を促した。

(2) 労働力不足に対応した主要な担い手の生産力維持

ア 省力樹形の導入支援

労働力不足が若手生産者で問題となっているため、管理作業の省力化を目的として、省力樹形の導入を図った。そのため、視察や現地検討会、個別巡回により省力樹形のメリットや定植後の管理方法等の理解を深め、導入に向けて意欲を向上させた。



写真2 省力樹形視察研修会の開催

イ 作業の効率化に向けた機械の導入

作業の効率化につながる機械（選果機、封函機）の視察研修会を開催する

とともに、導入に前向きな生産者に対して、補助事業の活用を提案した。

(3) 産地を支える担い手の育成

ア 若手生産者の育成

八千代市梨業組合研究部は若手生産者 19 名が在籍し、研修会の開催などにより、知識・技術の向上を図るとともに、部員相互が経営状況や自身が経営において担う役割について切磋琢磨する場として大きな役割を果たしている。そこで、研究部活動を充実させるため、平成 30 年度から令和 4 年度にかけて、部員の関心が高い省力樹形の視察を 7 回開催したほか、新品種検討会の開催など若手生産者が研鑽する機会を設けるなどの支援をした。

イ 経営参画に向けた女性農業者の育成

女性農業者の経営参画に向け、8 名を対象に新梢管理やせん定などの基本的な栽培技術や販売管理の講習会を JA 八千代市、研究部と連携して開催した。

また、女性農業者視点のアイデアを梨業組合で生かすため、JA 八千代市と協力し、地域の女性リーダー講座への参加と産地への提案内容の検討について支援した。

3 活動の成果

(1) 計画的な改植の実施に向けた白紋羽病防除技術の導入

八千代市では、平成 30 年度に温水処理機が 1 台導入されている。令和元年から令和 4 年にかけて温水処理技術の防除効果の周知や処理方法の講習会を開催したことにより、9 戸の生産者ほ場で累計 150 樹の温水処理が実施された。令和 5 年度には、八千代市内で温水処理機が 1 台追加導入される予定で、今後さらに温水処理による白紋羽病防除が広がる見込みである。

(2) 労働力不足に対応した主要な担い手の生産力維持

省力樹形の先進事例視察や導入意向がある担い手への重点的な個別指導により、平成30年～令和4年にかけて5戸が2本主枝栽培、1戸がジョイント栽培を導入し、そのうち3戸が28a規模拡大した。

さらに、JA八千代市と連携し、事業活用を促したことにより、2戸で選果機が新たに導入された。

(3) 産地を支える担い手の育成

ア 若手生産者の育成

研究部活動及び個別巡回での技術指導により、知識や技術が習得され、梨の収量・品質に大きな影響を与える防除作業を含む作業全般を主として担うとともに、経営改善に自分の意見を反映できる若手生産者が7名増加した。

また、離農したほ場38aを若手生産者4名が引き継ぎ、産地面積の維持に貢献するとともに、研究部員の3名が地域農業をけん引する千葉県農業士に認証された。

イ 女性農業者の経営参画

経営のパートナーである女性農業者の経営参画に向けて、技術習得を図った結果、作業全般（防除作業を除く）に関わるとともに、経営改善に主体的に取り組む女性農業者が3名増加し、6名となった。

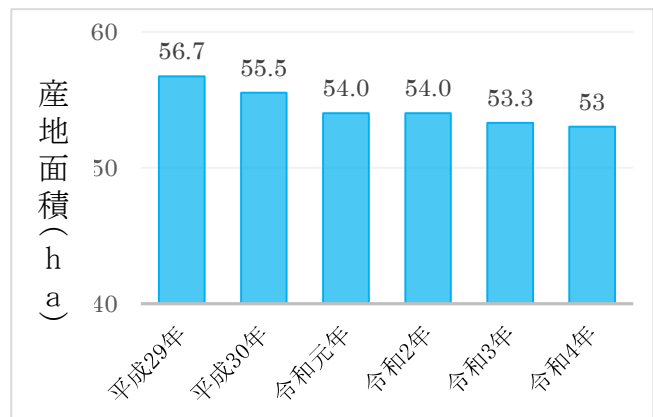


図1 産地面積の推移

4 将来の方向と課題

(1) 白紋羽病防除を目的とした温水処理技術の利用拡大

栽培管理の他に温水処理作業が加わり、労働時間が多くなるため、作業時間を短縮できる方法を検討し、白紋羽病防除を拡大させる。

(2) 労働力不足の対策

選果機や封函機等効率的に作業ができる機械の導入と雇用者の活用により栽培面積の維持・拡大を図る。

(3) 産地を支える担い手の育成

若手生産者及び女性農業者の経営参画を支援し、産地を支える担い手の育成を継続していく。

5 担当者 八千代グループ 田中 稔久

6 協力機関 八千代市、JA八千代市